

イエスのことば 第 54 回

弟子たちはイエスに尋ねた、「先生。この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか。」イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです。わたしたちは、わたしを遣わされた方のわざを、昼のうちにを行わなければなりません。だれも働くことができない夜が来ます。わたしが世にいる間は、わたしが世の光です。」(ヨハネ 9 : 2~5)

□文脈の確認

1. イエスの公生涯を起承転結の四部構成に分け、背景を理解ながら、イエスのことばを一つひとつ学んでいる。
2. 転の部、弟子訓練。十字架まで、1 年余。その前半の約 6 か月間において、イエスは、異邦人の地域へ 4 回、旅行した。異邦人地域への 4 回の旅行は、退避(リトリート)と休息の時であったと同時に、弟子たちの訓練を目的とした。
3. リトリートから帰ってきた後、紀元 29 年秋 10 月の仮庵の祭りから冬 12 月の宮きよめの祭りまで、約 3 か月の間に起きた出来事
 - (1) 仮庵の祭りの前(ヨハネ 7 : 2~10、ルカ 9 : 51~56、マタイ 8 : 19~22)
 - (2) 仮庵の祭りにおいて 指導者層との衝突
 - ① 仮庵の祭りでの衝突【全体的な流れ】(ヨハネ 7 : 11~52)
 - ② 仮庵の祭りの期間中の個別的な衝突(ヨハネ 7 : 53~10 : 21)
律法をめぐり、光をめぐり、メシアの神性をめぐり、
生まれながらの盲人の癒やしをめぐり、「羊飼い」(メシア預言)をめぐり
 - (3) 仮庵の祭りの後(ルカ 10 : 1~13 : 21)
 - (4) 宮きよめの祭りにおいて(ヨハネ 10 : 22~39)

仮庵の祭りでの個別的な衝突、生まれながらの盲人の癒やしをめぐり

ヨハネ 9 章

□アウトライン

- A) 場面設定(ヨハネ 9 : 1、14)
- B) 目の障害の癒やし(ヨハネ 9 : 1~14)
- C) 指導者層による尋問(ヨハネ 9 : 15~34)
- D) 霊的な癒やし(ヨハネ 9 : 35~41)

A) 場面設定 (ヨハネ 9 : 1、14)

1 節 さて、イエスは通りすがりに、生まれたときから目の見えない人をご覧になった。

14 節 イエスが泥を作って彼の目を開けたのは、安息日であった。

1. 仮庵の祭りの期間中に起きた個別的衝突に関する記事の 4 つめ。イエスが通りすがりに見かけた盲人の目を開けたという奇跡が発端となった出来事。
2. この日は安息日であった。モーセの律法では、「安息日には仕事をしてはならない」と命じられていた。これについて、ユダヤ教パリサイ派では、「言い伝え」(または、口伝律法)と呼ばれる細則を設けて、【医療行為も仕事にあたり、安息日には緊急を要しない限り、すなわち容態や命に危険がない限り、医療行為をしてはならない】と教えていた。
3. イエスが盲人の目を開ける奇跡をするにあたり、わざわざ「泥を作って」という方法をとった。イエスは地面にご自分の唾をして、濡れた土を手に取り、それを練って泥を作り、その泥を盲人の目に塗った。これには理由がある。ユダヤ教パリサイ派の設けた細則では、病人の目を開けたり閉じたりする医療行為について安息日にしていいかどうか、具体的に事細かに定めていた。その中には、①【ワインを瞼の上に垂らすのは許されるが、目の中に入れるのは禁止】、②【ワインをパンに浸してそのパンを瞼の上に置くのは許される】、③【唾を吐いてそれを病人の目につけるのは、瞼の上も目の中に入れるのも禁止】、などの定めがあった。イエスは③の細則を意図的に破って見せた。
4. ユダヤ教パリサイ派を中心とする指導者層にしてみれば、イエスのこの奇跡はあからさまに、安息日に関する口伝律法を破っており、見過ごすことはできない。しかし、悩ましいのは、彼らが民衆に対し、これまでメシアについて教えるときに、【もし、生まれたときから目の見えない人の目を開けることができるなら、それはメシアである】と教えてきたことである。イエスをメシアではないと判定していることと矛盾しないように、今回の癒やしについて民衆に説明しなければならない。そのために、指導者層は、癒やされた人や彼の両親を呼んで事情を聴くとともに、イエスをメシアとは認めないよう圧力をかけた。この出来事においても、指導者層は心をかたくなにして、イエスと衝突した。

B) 目の障害の癒やし (ヨハネ 9 : 1~14)

1. 生まれたときから目の見えない人に関する弟子たちの質問 (ヨハネ 9 : 1~2)

1~2 節 さて、イエスは通りすがりに、生まれたときから目の見えない人をご覧になった。弟子たちはイエスに尋ねた。「先生。この人が盲目で生まれたのは、だれが罪を犯したからですか。この人ですか。両親ですか。」

2. イエスの応答 (ヨハネ 9 : 3~5)

3~5 節 イエスは答えられた。「この人が罪を犯したのでもなく、両親でもありません。この人に神のわざが現れるためです。わたしたちは、わたしを遣わされた方のわざを、昼のうちに行わなければなりません。だれも働くことができない夜が来ます。わたしが世にいる間は、わたしが世の光です。」

➤ 「わたしが世の光です」・・・二番目の個別的衝突「光をめぐり」での宣言

3. イエスによる奇跡 (ヨハネ 9 : 6~7)

6~7 節 イエスはこう言ってから、地面に唾をして、その唾で泥を作られた。そして、その泥を彼の目に塗って、「行って、シロアム (訳すと、遣わされた者) の池で洗いなさい」と言われた。そこで、彼は行って洗った。すると、見えるようになり、帰って行った。

4. 近所の人たちの驚きと指導者層への報告 (ヨハネ 9 : 8~14)

8~9 節 近所の人たちや、彼が物乞いであったのを前に見ていた人たちが言った。「これは座って物乞いをしていた人ではないか。」ある者たちは、「そうだ」と言い、ほかの者たちは「違う。似ているだけだ」と言った。当人は、「私がその人です」と言った。

10~12 節 そこで、彼らは言った。「では、おまえの目はどのようにして開いたのか。」彼は答えた。「イエスという方が泥を作って、私の目に塗り、『シロアムの池に行って洗いなさい』と言われました。それで、行って洗うと、見えるようになりました。」彼らが「その人はどこにいるのか」と言うと、彼は「知りません」と答えた。

13~14 節 人々は、前に目の見えなかったその人を、パリサイ人たちのところに連れて行った。イエスが泥を作って彼の目を開けたのは、安息日であった。

C) 指導者層の尋問 (ヨハネ 9 : 15~34)

1. 癒やされた人に対する尋問 1 回目、指導者層の中で評価が割れる (ヨハネ 9 : 15~17)

15 節 こういうわけで再び、パリサイ人たちも、どのようにして見えるようになったのか、彼に尋ねた。彼は、「あの方が私の目に泥を塗り、私が洗いました。それで今は見えるのです。」

16 節 a すると、パリサイ人のうちのある者たちは、「その人は安息日を守らないのだから、神のもとから来た者ではない」と言った。

16 節 b (パリサイ人たちのうちの) ほかの者たちは、「罪人である者に、どうしてこ

のようなしるしを行うことができるだろうか」と言った。

16 節 c そして彼らの間に分裂が生じた。

17 節 そこで、彼らは再び、目の見えなかった人に言った。「おまえは、あの人についてどう思うか。あの人に目を開けてもらったのだから。」彼は「あの方は預言者です」と答えた。

2. 両親に対する尋問、両親は指導者層の圧力を恐れた（ヨハネ 9：18～23）

18～19 節 ユダヤ人たちはこの人について、目が見えなかったのに見えるようになったことを信じず、ついには、目が見えるようになった人の両親を呼び出して、尋ねた。

「この人は、あなたがたの息子か。盲目で生まれたとあなたがたが言っている者か。そうだとしたら、どうして今は見えるのか。」

20～21 節 そこで、両親は答えた。「これが私たちの息子で、盲目で生まれたことは知っています。しかし、どうして今見えているのかは知りません。だれが息子の目を開けてくれたのかも知りません。本人に聞いてください。もう大人です。自分のことは自分で話すでしょう。」

22～23 節 彼の両親がこう言ったのは、ユダヤ人たちを恐れたからであった。すでにユダヤ人たちは、イエスをキリストであると告白する者がいれば、会堂から追放すると決めていた。そのために彼の両親は、「もう大人ですから、息子に聞いてください」と言ったのである。

3. 癒やされた人に対する尋問 2 回目（ヨハネ 9：24～34）

24～25 節 そこで彼らは、目の見えなかったその人をもう一度呼び出して言った。「神に栄光を帰しなさい。私たちはあの人を罪人であることを知っているのだ。」

彼は答えた。「あの方が罪人かどうか私は知りませんが、一つのことは知っています。私は盲目であったのに、今は見えるということです。」

26～29 節 彼らは言った。「あの方はおまえに何をしたのか。どのようにしておまえの目を開けたのか。」彼は答えた。「すでに話しましたが、あなたがたは聞いてくれませんでした。なぜもう一度聞こうとするのですか。あなたがたも、あの方の弟子になりたいのですか。」彼らは彼をののしって言った。「おまえはあの方の弟子だが、私たちはモーセの弟子だ。神がモーセに語られたということを私たちは知っている。しかし、あの方については、どこから来たのか知らない。」

30～34 節 その人は彼らに答えた。「これは驚きです。あの方がどこから来られたのか、あなたがたが知らないとは。あの方は私の目を開けてくださったのです。私たちは知っています。神は、罪人たちの言うことはお聞きになりませんが、神を敬い、神のみこころを行う者がいれば、その人の言うことはお聞きくださいます。盲目で生まれた者の目を開けた人がいるなどと、昔から聞いたことがありません。あの方が神から出ておられるのでなかったら、何もできなかつたはずです。」

彼らは答えて言った。「おまえは全く罪の中に生まれていながら、私たちを教えるのか。」そして、彼を外に追い出した。

- 「おまえは全く罪の中に生まれていながら」・・・【障害をもって生まれてくるのは、親以前の世代の罪の結果（出 34：7）、または本人が母親の胎内にいたときに選び取った邪悪さ（その現れが母親のおなかをひどく蹴る行為）の結果である】と、当時のユダヤ教パリサイ派のラビたちは教えていた。
- また、【障害をもって生まれる、とくに生まれながらの盲目は神のさばきによることなので、人の力で癒やすことはできない。神の赦しが必要である。それができるのは神から出たお方、メシアである】と教えていた。波線箇所彼の陳述は、まさに自分たちが民衆に教えていたことであった。それを言われて、指導者層は「私たちを教えるのか」と怒った。
- 彼を外へ追い出した・・・単に尋問の場所から外に出したではなく、会堂からの追放処分（22 節）、すなわちユダヤ人社会からの追放である。

D) 霊的な癒し（ヨハネ 9：35～41）

1. 追放された彼をイエスが見つけ出して、霊的な救いに導いた（ヨハネ 9：35～38）

35～38 節 イエスは、ユダヤ人たちが彼を外に追い出したことを聞き、彼を見つけ出して言われた。「あなたは人の子を信じますか。」その人は答えた。「主よ、私が信じることができるよう教えてください。その人はどなたですか。」イエスは彼に言われた。「あなたはその人を見えています。あなたと話している人が、その人です。」彼は「主よ、信じます」と言って、イエスを礼拝した。

2. 彼の信仰に対するイエスの応答、そしてパリサイ人の質問（ヨハネ 9：39～41）

39～41 節 そこで、イエスは言われた。「わたしはさばきのためにこの世に来ました。目の見えない者が見えるようになり、見える者が盲目となるためです。」パリサイ人中でイエスとともにいた者たちが、このことを聞いて、イエスに言った。「私たちも盲目なのですか。」イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたが盲目であったなら、あなたがたに罪はなかったでしょう。しかし、今、『私たちは見える』と言っているのですから、あなたがたの罪は残ります。」